

# Syllabus 2018

## 追補版

# LEC 会計大学院

LEC 東京リーガルマインド大学院大学 高度専門職研究科 会計専門職専攻

LEC GRADUATE SCHOOL OF ACCOUNTING

YA18125

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2018	後期	発展	ITリテラシーⅡ	横井隆志	15	2

## 授業の目的

本授業の目的は、高度な会計専門職業人にとって不可欠な能力として、財務モデルの構築と分析を念頭に、表計算アプリケーション Excel を論理的、創造的に活用できる IT リテラシーを構築することです。

従来、データの整理や分析は、高度な専門知識をもつ、データ・アナリストやデータ・サイエンティストと呼ばれる情報処理の専門家の仕事でした。しかし、Tableau などのアプリケーションが登場したことにより、情報の専門家ではない、データの利用者自身がデータの整理や分析を行うことが比較的容易になりました。

規模の大小を問わず一般化している、SAP や ORACLE といった ERP パッケージソフト、勘定奉行や弥生会計などの会計ソフトによる会計処理の結果として生成・処理される会計データをどのように整理・加工・分析するか・できるかが、現在、そして、未来の会計専門職業人にとって重要なスキルです。本授業は、そのようなスキルのための強固な土台を構築することを目指します。

何故、本授業が Excel を取り上げるのか。それは上記の多くのソフトウェアによって生成・処理される様々なデータを創造的に加工・分析するには Excel によって行うことが一般的だからです。しかも、その加工や分析は単に Excel を使うということではなく、伝統的なフレームワークである会計のロジックに従って加工・分析される必要があります。それが具体的に表現されるのが財務モデルの構築と分析であると考えます。また、Tableau に代表される、情報を視覚化するアプリケーションを活用する際にも、データベースの基本的な概念を理解してデータの整理・加工を行うことが求められます。

本授業では本格的に会計データを分析する、若しくは高度な会計シミュレーションを実行するための基礎がどこにあるのかを提示すると共に、その活用法の基本的な考え方を紹介します。これらのことを通じて、Excel を会計専門職業人として論理的・創造的に活用する土台が築けるものと考えます。

## 授業の到達目標

本授業の到達目標は、高度な会計専門職業人が備えるべきスキルと考えられる財務モデルの構築と分析、さらには、Tableau などのソフトウェアの利用を念頭に、Excel の基本を習得し、論理的、創造的に活用できる土台を構築することです。ここでいう基本には、IT リテラシーⅠで扱う内容も含め、相対参照と絶対参照、ワークシートの構成法、IF 関数を中心とする論理関数、VLOOKUP 関数を中心とするデータの検索・抽出を行う関数の複合的な利用、データベース、グラフ、VBA が含まれます。

## 履修条件

IT リテラシーⅠを優秀な成績 (S もしくは A) で修得済で、Excel の基礎 (相対参照と絶対参照、IF 関数、VLOOKUP 関数、データベースのフィールドとレコードの概念) を理解していること。

Microsoft Office 365 サブスクリプションに契約した状態で Windows 版の Office 2016 (Word, Excel, PowerPoint) が動作するパソコンを毎回持参すること。Office 2013, Mac 版 Office 2016, Office 365 の契約が無い状態の Windows 版 Office 2016 でも授業で扱うほとんどの機能をカバーできますが、一部、Office 365 の契約を前提とした Windows 版 Office 2016 を必要とする最新機能を扱います。

本科目は、実習の前提となるエクセルの基礎 (IT リテラシーⅠで扱った相対参照と絶対参照、IF 関数、VLOOKUP 関数、データベースのフィールドとレコードの概念) を修得していることを前提として、実習やグループワークを中心に授業を展開します。主体的、能動的に課題に取り組み、履修者相互に意見交換や情報共有を行い、自身のスキルの修得にとどまらず、他の履修者に対しても積極的に貢献する姿勢で授業に臨んでいただくことを履修条件とします。

ただし、条件を満たさないが特に履修を希望する場合は、理由を添えて事務局に書面を提出し、担当教員の了解を得ること (場合により担当教員から事前課題等を課すことがあります)。

## 授業計画

回	授業内容	日程
1	【Excel の基礎の振り返り～】 ワークシートの基本やセルを参照する計算など、IT リテラシーⅠで学修した Excel の基礎的な概念を振り返ります。効率的なワークシートの作成に不可欠な相対参照と絶対参照の概念について正確に理解し、複写、移動、貼り付けを行う際の操作を確認します。あわせて、関数の基本構造を確認します。 ※参考書の pp. 88-89. 「モデルと財務モデル」、pp. 93-98. 「絶対参照と相対参照の違いをキチンと理解する」、pp. 99-106. 「簡単なモデルを組んでみよう」で触れられている内容です	10月7日(日) ⑥18:30-20:00
2	【IF 関数を中心とした論理関数】 論理式、すなわち、設定された条件に基づいて分岐処理を行う IF 関数と、IF による条件分岐の基準になる論理式の構成に活用できる AND 関数、OR 関数、NOT 関数について学習します。 pp. 79-80 「論理計算やシミュレーションを行う際に役立つ関数」で触れられています。実際に財務モデルを組む際は何らかの論理が必要になるので、基礎として本授業では参考書とは異なり一通り押さえます。	10月14日(日) ⑥18:30-20:00
3	【IF 関数を中心とした論理関数と VBA①】 第2回に続き、IF 関数と、IF による条件分岐の基準になる論理式の構築に活用できる AND 関数、OR 関数、NOT 関数について学びます。 あわせて、VBA コードの基本、VBA エディタを用いたマクロの基本的な編集の仕方を学習し、IF 構文と論理演算子 (AND, OR, NOT) の組み合わせによる条件分岐の実装を体感します。	10月21日(日) ⑥18:30-20:00
4	【IF 関数を中心とした論理関数と VBA②】 あらかじめ用意された関数を補う方法として、VBA で計算構造を記述することによりワークシート上で一般の関数と同様に扱うことのできる関数を作成するユーザー定義関数の記述法を学び、IF 構文による条件分岐を含むユーザー定義関数を実装します。	10月28日(日) ⑥18:30-20:00
5	【ワークシート構成法】 必要な情報を相手に伝えることのできる見やすい表を作成することを念頭に、論理をどのようにシート上に構成するか、また、フォント、表記、配色、罫線をいかに効果的に使うかを考えます。あわせて、セルの表示形式について理解し、定型的に、あるいは、ユーザー定義によりデータに単位等の情報を補	11月4日(日) ⑥18:30-20:00

	う方法を学びます。 ※参考書の pp. 14-44. 「第1章 見やすいExcelの表を作る」, pp. 46-82 「第2章 エクセルの作業スピードを3倍にする」, pp. 161-165 「感度分析の便利なテクニック」で扱われている内容です。適宜授業内でも言及することを予定します。	
6	【VLOOKUP 関数を中心とした検索/行列関数】 指定した条件により検索を行い、単一の、あるいは複数のデータのまとまりの中から任意の値を抽出する方法を学習します。検索関数によるデータ抽出の第1段階として、基本であり応用の土台となる、この科目で最も重要な関数である VLOOKUP, HLOOKUP の引数の意味と機能を理解します。※参考書の p. 77. 「大量のデータをまとめる際に便利な関数」, pp. 153-156. 「シナリオ分析」で触れられています。上記の通り大量のデータをまとめることや、シナリオ分析といった財務モデルの高度化にこれらの関数は威力を発揮します。そのことを念頭に、この第6回から第8回にかけて基本と応用を巡って講義します。	11月11日(日) ⑥18:30-20:00
7	【VLOOKUP 関数を中心とした検索/行列関数】 指定した条件により検索を行い、単一の、あるいは複数のデータのまとまりの中から任意の値を抽出する方法を学習します。VLOOKUP, HLOOKUP と類似で、検索方法が異なる INDEX 関数、VLOOKUP, HLOOKUP を拡張する関数として MATCH 関数を習得します。	11月18日(日) ⑥18:30-20:00
8	【VLOOKUP 関数を中心とした検索/行列関数】 指定した条件により検索を行い、単一の、あるいは複数のデータのまとまりの中から任意の値を抽出する方法を学習します。文字列を読み取って間接的に参照することを可能にする INDIRECT 関数の構造と機能を理解し、VLOOKUP, HLOOKUP にネストすることで、複数の対照表からのデータ検索を可能にすることや、より柔軟な範囲の指定を可能にすることを体感します。	11月25日(日) ⑥18:30-20:00
9	【その他の関数】 シリアル値の概念を理解し、Excel における日付と時刻の扱い方を習得します。また、文字列を操作する関数について学習します。 ※参考書の pp. 78-79. 「定型文を作るときに役立つ関数」, p. 79. 「TEXT 関数の使用例」, pp. 161-165 「感度分析の便利なテクニック」で扱われている内容です。	12月2日(日) ⑥18:30-20:00
10	【データベース機能】 Excel のワークシート上で機能するデータベースについて、「フィールド」と「レコード」の概念に基づく構造を理解し、データベースを構築する方法を学びます。様々な属性を持つ情報を Excel 上でひとまとまりのデータとして扱う際、「フィールド」と「レコード」の概念を理解することが極めて重要です。データベース専用のアプリケーションと比較して Excel が備えるデータベース機能は限定されたものではありませんが、少なくとも Excel のデータベース機能を利用することで財務モデリングの広がり大きなものになります。その為、財務モデリングの応用を念頭に Excel のデータベース機能について学びます。	12月9日(日) ⑥18:30-20:00
11	【データベース機能】 第10回に引き続き、Excel のワークシート上で「フィールド」と「レコード」という概念に基づいて構成されるデータベースについて学習します。フォームによるデータの入力や、オートフィルタによるデータの抽出等について学習します。	12月16日(日) ⑥18:30-20:00
12	【グラフの作成とデータ分析】 具体的な分析手法を用いて、グラフ作成のためのシートの構築法とグラフの基本的な作成法、グラフツールによるグラフのカスタマイズ、グラフによるデータ分析の手法を学びます。 データの傾向性を把握する術としてグラフ化は重要です。また、Excel ではグラフからデータ分析を行うことも可能です。一旦構築された財務モデルを分析したり、適切に再構築したりする重要なツールとして、グラフ機能について理解を深めたいと思います。	1月6日(日) ⑥18:30-20:00
13	【グラフの作成とデータ分析】 第12回に引き続き、グラフ作成のためのシートの構築法とグラフの基本的な作成法、グラフツールによるグラフのカスタマイズ、グラフによるデータ分析の手法を学びます。	1月13日(日) ⑥18:30-20:00
14	【VBA】 一連の動作を記録することでマクロ化する方法と For~Next ループによる繰り返し処理の基本を学習します。 Excel では、VBA の詳細な構文を知らなくても、Excel 上で実際に行った動作をプログラムとして記録することが可能です。また、For~Next ループにより、一定の間隔で、繰り返し、値を入力すること等が可能になります。シナリオ分析におけるシナリオの作成と切り替えなどへの応用を念頭に、上記の機能を学びます。	1月20日(日) ⑥18:30-20:00
15	【ゴールシーク、ソルバーと VBA】 一連の要素の関連が表現されたモデル上で自動的に試行錯誤計算を行い、目標値を逆算的に算出するゴールシーク、ソルバーの用法を学習し、VBA による実装を行います。 ゴールシークにより、一旦構築された財務モデル上で、ある目標を達成するためにはどの指標をどの程度変化させれば良いか、といったシミュレーションができるようになります。さらに、ソルバーを用いることで、複数の制約条件を与えたり、最大値を求めたりすることが可能になり、より高度なシミュレーションが可能となります。財務モデルを意思決定に活用したりすることを念頭に、上記の機能について学習します。	1月27日(日) ⑥18:30-20:00
試験	なし	

## 使用教科書/評価方法等

教科書	特に指定しない。
参考書	「外資系金融の Excel 作成術—表の見せ方&財務モデルの組み方」 慎泰俊. 東洋経済新報社. その他、授業内で適宜紹介する。
評価方法	課題ならびに実習の成果物 40%、小テスト 40%、出席ならびに授業への貢献度など 20% 期末試験は実施しません。授業内で複数回、小テストを実施します。
その他	履修者の皆様の習熟度や進捗度合いに応じて授業の内容を適宜変更する場合があります。また、各回で予定している内容に加え、IT をめぐる最新の動向等について、その都度、積極的に情報を共有します。

YA18213

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2018	後期	基本	簿記論	濱本道正	15	2

## 授業の目的

職業会計人(税理士や公認会計士)を目指す者にとって、複式簿記の知識と技能は必要不可欠である。この講義では、会計専門職大学院の修了者であれば当然身に付けておくべき基本的な知識として、簿記一巡の手続から企業再編会計、連結会計などについて学習するとともに、新しい会計領域として、金融商品、固定資産の減損、リース、税効果会計、退職給付、資産除去債務などを取り上げ、Up to date な知識を習得させる。また、簿記処理技法を身に付けるために、随時記帳練習を実施する。併せて、表計算ソフト等を用いたデータ分析により IT リテラシーの向上を図る。

## 授業の到達目標

職業会計人を目指す者にとって必要な簿記の基本的な知識と技能を習得することを目標とする。

## 履修条件

この講義は簿記会計の初学者を主たる対象とするので、履修の前提となる条件はない。なお、簿記の入門レベルを学習済みの者でも知識を再確認するために受講することは望ましい。

## 授業計画

回	授業内容	日程
1	<b>【簿記一巡の手続と財務諸表】</b> 会計の計算技術的な側面を担っているのが複式簿記である。そこで、企業活動(取引)の二面的記録から始まり決算整理を経て財務諸表の作成に至るまでの簿記一巡の手続について学習する。併せて、損益計算書と貸借対照表が利益計算において相互補完的な役割を果たすことを理解する。	10月7日(日) ②11:10-12:40
2	<b>【現在価値】</b> 新しい会計領域を学習する際に欠かせない知識として、貨幣の時間価値(利子率)の概念に基づく割引現在価値による計算・記帳技術を身に着ける。	10月14日(日) ②11:10-12:40
3	<b>【金融資産】</b> 債権(取得・譲渡の処理、貸倒引当金、手形に関する偶発債務)、有価証券(範囲と区分、取得価額、期末評価)を理解したうえで、デリバティブ(派生金融商品)とヘッジ会計について学習する。	10月21日(日) ②11:10-12:40
4	<b>【商品売買】</b> 商品勘定(分記法、総記法、三分法)、仕入および売上の割引・割戻、棚卸資産の期末評価(棚卸減耗費、商品評価損)、売価還元法、特殊商品売買および顧客との契約による収益認識について学習する。	10月28日(日) ②11:10-12:40
5	<b>【固定資産】</b> 有形固定資産の取得原価(圧縮記帳、資本的支出と収益的支出)、減価償却、除却と売却、減損処理、リースの会計・記帳処理について学習する。	11月4日(日) ②11:10-12:40
6	<b>【負債】</b> 負債の範囲と区分、営業上の債務、社債(普通社債、新株引受権付社債)、引当金、退職給付、資産除去債務の会計・記帳処理について学習する。	11月18日(日) ②11:10-12:40
7	<b>【純資産】</b> 株主資本と純資産の関係を踏まえたうえで、払込資本(資本金と資本剰余金、会社の設立、増資、減資、自己株式)、利益剰余金(留保利益と剰余金の関係、剰余金の配当と分配可能額、損失の処理)、評価・換算差額等、株主資本等変動計算書について学習する。	11月25日(日) ②11:10-12:40
8	<b>【企業再編会計】</b> 企業再編の類型(会社の合併、株式交換と株式移転、会社の分割)を理解したうえで、「取得」へのパーチェス法の適用と「持分の結合」への持分プーリング法の適用について学習する。	12月2日(日) ②11:10-12:40
9	<b>【包括利益】</b> 包括利益の意義、包括利益と純利益の関係を理解したうえで、その他の包括利益、リサイクル	12月9日(日) ②11:10-12:40

	リング(組替調整)、包括利益計算書(1計算書方式と2計算書方式)について学習する。	
10	<b>【税効果会計】</b> 税金の申告と納付、企業会計と課税所得計算の相違、税効果会計の必要性、繰延税金資産と繰延税金負債の計上方法について学習する。	12月16日(日) ②11:10-12:40
11	<b>【連結会計の概要】</b> 連結財務諸表の会計主体観(親会社説と経済的単一体説)を踏まえて、連結の範囲、投資と資本の相殺消去、のれん、非支配株主持分などの基本事項について学習する。	1月6日(日) ②11:10-12:40
12	<b>【資本連結】</b> 支配獲得時の資本連結(0%からの支配獲得、段階的取得による支配獲得)、支配獲得後の追加取得、子会社株式の売却、子会社の増資など各種の資本連結の手続について学習する。	1月13日(日) ②11:10-12:40
13	<b>【内部取引および未実現利益の消去】</b> 連結会社間取引の相殺消去(債権・債務の相殺消去、貸倒引当金の調整、収益・費用の相殺消去)、未実現利益の消去(棚卸資産に含まれる未実現損益、固定資産に含まれる未実現利益、子会社が計上した未実現利益の負担方法)、未実現利益の税効果会計について学習する。	1月20日(日) ②11:10-12:40
14	<b>【持分法】</b> 持分法の意義と適用範囲を理解したうえで、持分法適用の手続(投資と資本、当期純損益の振替、未実現利益の消去、配当金の修正、持分法による投資損益の表示)について学習する。	1月27日(日) ②11:10-12:40
15	<b>【外貨換算会計】</b> 為替相場と換算方法の関連を踏まえて、外貨建取引の換算、為替予約、在外支店の財務諸表項目の換算、在外子会社等の財務諸表項目の換算について学習する。	2月3日(日) ②11:10-12:40
試験	レポート	

## 使用教科書/評価方法等

教科書	『財務会計講義』桜井久勝著 中央経済社 (第15版より新しい版)
参考書	記帳練習用の簿記ワークブック(開講時に指示する)
評価方法	期末レポート70%、出席を含む授業への貢献度など30%
その他	

YA18226

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2018	後期	発展	英文会計	結城邦博	15	2

## 授業の目的

会計や税務の分野で、英語を使って仕事をするための基礎力を身につけることがこの授業の目的です。

## 授業の到達目標

英文会計の習得には、問題演習は極めて有効だと考えています。この授業では、BATIC Subject1「英文簿記」のテキストと問題集を用います。英文会計に関する設例を読み、適切に解答できることを到達目標とします。

## 履修条件

英文会計に対して前向きに取り組む意欲のある方。皆さんの英語基礎力向上を目的としており、英検であれば3級から準2級、TOEICであれば300-500程度のレベルの方を想定して授業を構成しています。  
(テキストは日本語ですが、練習問題や期末テストは全て英語です。)

## 授業計画

回	授業内容	日程
1	講義のオーバービュー / 簿記の歴史	10月6日(土) ⑥18:30-20:00
2	Ch.1 Basic Concepts of Accounting and Bookkeeping 会計と簿記の基本概念	10月13日(土) ⑥18:30-20:00
3	Ch.2 Transactions and Journal Entries 取引と仕訳	10月20日(土) ⑥18:30-20:00
4	Ch.2 Transactions and Journal Entries 取引と仕訳(続き)	10月27日(土) ⑥18:30-20:00
5	Ch.3 Journals and Ledgers 仕訳帳と元帳	11月3日(土) ⑥18:30-20:00
6	Ch.4 Trial Balance 試算表	11月10日(土) ⑥18:30-20:00
7	Ch.5 Adjusting Entries 決算修正仕訳	11月17日(土) ⑥18:30-20:00
8	Ch.5 Adjusting Entries 決算修正仕訳(続き)	11月24日(土) ⑥18:30-20:00
9	中間テスト	12月1日(土) ⑥18:30-20:00
10	Ch.6 Accounting for Inventory and Cost of Sales 棚卸資産と売上原価の会計処理	12月8日(土) ⑥18:30-20:00
11	Ch.7 Worksheet and Closing Entries 精算表と締切仕訳	12月15日(土) ⑥18:30-20:00
12	Ch.8 Financial Statements 財務諸表	1月5日(土) ⑥18:30-20:00
13	Ch.9 Basic Assumptions and IFRS 基本的な前提とIFRS	1月12日(土) ⑥18:30-20:00
14	Ch.10 Financial Statement Analysis 財務諸表分析 Ch.11 Internal Control 内部統制	1月19日(土) ⑥18:30-20:00
15	問題演習	1月26日(土) ⑥18:30-20:00
試験	期末試験	2月2日(土) ⑥18:30-20:00

使用教科書/評価方法等

教科書	東京商工会議所編 BATIC (国際会計検定) Subject1 公式テキスト新版 (2018/02 発売) 東京商工会議所編 BATIC (国際会計検定) Subject1 問題集 新版 (2018/02 発売)
参考書	適宜、紹介します。
評価方法	出席を含む授業への貢献度 (40%)、中間テスト (英語) 10%、期末テスト (英文) (50%)
その他	注意事項：授業の内容は進度などに応じて変わることがあります。

YA18525

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2018	後期	発展	監査手続論	相川聡志	15	2

## 授業の目的

1年間を通して監査を行うにあたって、それぞれの段階の監査手続を時系列を追うように解説する。各段階での監査の目的を理解し、それに応じた監査手続の設計及び実施ができる能力を養うことを目的とする。なお、公認会計士という職業のみならず、財務数値を扱う職業的会計人に必要な職業的懐疑心および監査能力の習得を目指す。

## 授業の到達目標

実務における一連の監査手続を学び、実務に出られる即戦力の習得を到達目標とする。

## 履修条件

「監査論」の既履修もしくは同程度の理解を前提とする。

## 授業計画

回	授業内容	日程
1	監査全体像 監査を行う目的（最終的なゴール）について確認を行う。財務諸表監査及び内部統制監査について、監査全体から見た関係を学習する。1年間を通じた監査の流れを学習する。	10月8日(月) ⑤19:30-21:00
2	リスクアプローチ 総論現代における監査の根幹を成すリスクアプローチについて学習する。	10月15日(月) ⑤19:30-21:00
3	監査契約、監査の基本的な方針の策定（上） そもそも監査契約自体を締結してよいのかについての検討を行う。現代における監査の根幹を成す重要性の基準値について学習する。	10月29日(月) 18:30-20:00
4	監査の基本的な方針の策定（下） 連結財務諸表に対するグループ監査について学習する。	10月29日(月) 20:10-21:40
5	財務諸表監査全体レベル及びアサーションレベルのリスク評価 それぞれのレベルにおいて発生しうるリスクについて把握を行う。	11月12日(月) ⑤19:30-21:00
6	リスクに対応したコントロールの評価 5回で把握したリスクに対して、どのようなコントロールが設計されているかの把握を行う。また、そのコントロールの有効性についての評価を行う。サンプリングについても学習する。	12月3日(月) 18:30-20:00
7	ITに係る内部統制 ITを利用した内部統制の評価について学習する。	12月3日(月) 20:10-21:40
8	業務プロセスに係る内部統制評価 リスク評価・コントロール評価が終わった段階での結合リスク評価を行う。結合リスク評価に応じた実証手続についての概括的な設計を行う。	12月10日(月) ⑤19:30-21:00
9	実証手続1 8回で行った結合リスク評価に応じた実証手続の概括的設計から必要な詳細な手続を導く。いわゆる実査・確認・立会等の監査手続の総論を行う。	1月7日(月) 18:30-20:00
10	実証手続2 資産（現預金、売掛金、棚卸資産、固定資産、等）	1月7日(月) 20:10-21:40
11	実証手続3 負債資本（買掛金、借入金、引当金、純資産、等）	1月14日(月) 18:30-20:00
12	実証手続4 損益科目、連結財務諸表	1月14日(月) 20:10-21:40
13	監査意見の形成 監査意見は監査人にとっての最終的な結論である。結論を導くに至る過程を学習する。また、継続企業の前提についても学習する。	1月28日(月) ⑤19:30-21:00



14	不正への対応（上） 会計不正への対応として、近年実際に生じた事例を基に、監査的視点から不正への対応を考える。	2月4日(月) 18:30-20:00
15	不正への対応（下） 会計不正への対応として、近年実際に生じた事例を基に、監査的視点から不正への対応を考える。	2月4日(月) 20:10-21:40
試験	なし	

## 使用教科書／評価方法等

教科書	講義において配布する資料、及び『監査実務ハンドブック（平成 28 年度版／2015）』（日本公認会計士協会出版局）
参考書	適宜案内を行う。
評価方法	授業への貢献度（授業内での発言及び参加姿勢）30%、授業出席 30%、授業内レポート 40%
その他	授業内での発言は正誤によって評価はしない。頭で考えた思考プロセス、授業に対する参加姿勢と理解しようとする姿勢を評価の対象とする。 授業内レポートについても、監査基準に従った正誤ではなく、思考プロセスおよび論理的発想を評価対象とする。

YA18622b

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2018	後期	発展	相続税法	小山登	8	1

## 授業の目的

相続税法の考え方をマスターし、具体的な事例により申告書作成方法を修得したいと考えています。さらに、実務で相続に従事する場合、相続税法の前提とされる民法（相続法）の基礎も研究します。

## 授業の到達目標

将来職業会計人として相続税法の案件に対処できる能力を養成することを目標とします。特に将来税実務をを行う場合の基礎力を養成したいと考えています。

## 履修条件

授業の前にテキストを予習することを前提に授業を進めます。  
民法の相続法から研究していきますので、毎回の授業に出席してください。

## 授業計画

回	授業内容	日程
1	相続人の確定、民法との関連性について 特に相続税法の借用概念として位置付けられる民法の規定を検討する。	12月1日(土) ②11:10-12:40
2	準確定申告・遺言について 遺言の必要性和重要性について検討する。	12月8日(土) ②11:10-12:40
3	相続税の研究 (1) 財産の評価について 相続税財産評価通達を研究し、総則6項について検討する。	12月15日(土) ②11:10-12:40
4	相続税の研究 (2) 課税価格の算定 民法の規定する「特別受益」があるケースについて検討する。また、具体的事例により課税価格の計算方法を検討する。	1月5日(土) ②11:10-12:40
5	相続税の研究 (3) 税額計算 税額計算の方法について具体的事例に基づき検討する。	1月12日(土) ②11:10-12:40
6	相続税の研究 (4) 小規模宅地の評価減について検討する。	1月19日(土) ②11:10-12:40
7	相続税の研究 (5) 不整形地の評価方法を具体的事例に基づき検討する。	1月26日(土) ②11:10-12:40
8	相続税の申告書作成 申告書作成方法をマスターする。	2月2日(土) ②11:10-12:40
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
試験	レポート	

使用教科書／評価方法等

教科書	『相続税の鉄則 50』日本税理士会連合会編・白井一馬、岡野訓、佐々木克典（中央経済社・2015年12月）改訂版が出版されれば改訂版を使用します。
参考書	『租税法[第22版]』金子宏（弘文堂、平成29年4月）
評価方法	期末レポート60%、出席を含む授業への貢献度など20%、中間試験（授業時間中の小テスト）20% 課題研究についてレポート提出を求めます。また、授業の途中で中間試験（授業時間中の小テスト）を行います。
その他	重要な裁判例、判例についても取り上げ皆様と議論したいと考えています。 また、資産税の税実務上の重要性についてお話ししたいと思います。 授業の全日程の出席を希望します。

YA18627b

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2018	後期	発展	法人税法	柳沢徹	15	2

## 授業の目的

法人税法は、企業利益に対し法人税を的確に課税するため幅広くかつ緻密に規定されている。そして、企業活動の多様化、グローバル化等の変化に対応し、随時改正が行われている。当授業では、この法人税法の基礎的重要事項について理解を深め、企業が直面する税務上の課題の本質を的確に把握し、適切な判断能力を身に付けることを目的とする。それにより、高度な専門的知識、問題解決能力をもつ職業会計人の育成に資することとする。

## 授業の到達目標

法令等を読む能力を高め、企業活動と法人税との関係に関する適確な判断力を身に付けること、さらには現行法の問題点やこれからの税制のあり方につき自分なりの考えを身に付けることを目標とする。

## 履修条件

国の税収の2割強を占める法人税に対して興味を持っていること。

## 授業計画

回	授業内容	日程
1	我が国の税体系における法人税制の沿革・位置づけ、法人税の意義・性質、法人税の納税義務者の種類、課税所得の範囲、事業年度及び納税地の意義について考察する。	10月3日(水) ⑤19:30-21:00
2	【課税所得の計算原理】決算利益と所得金額の計算構造及び決算調整・申告調整の意義について考察する。	10月10日(水) ⑤19:30-21:00
3	【益金の額(1)】益金の意義と認識基準について、法人税法第22条第2項の規定に基づき考察する。	10月17日(水) ⑤19:30-21:00
4	【益金の額(2)】受取配当等の益金不算入制度の意義、仕組み、計算等について、法人株主における二重課税排除の趣旨を踏まえて考察する。あわせて、外国子会社配当等の益金不算入制度の導入の意義と影響等について考察する。	10月24日(水) ⑤19:30-21:00
5	【益金の額(3)】資産の評価益、受贈益、還付金等、益金算入規定及び益金不算入規定について考察する。	10月31日(水) ⑤19:30-21:00
6	【損金の額(1)】損金の意義と認識基準について、法人税法第22条第3項の規定に基づき考察する。	11月7日(水) ⑤19:30-21:00
7	【損金の額(2)】減価償却資産の意義、取得価額、償却方法及び償却限度額について考察する。	11月14日(水) ⑤19:30-21:00
8	【損金の額(3)】役員給与の損金不算入制度について考察する。	11月21日(水) ⑤19:30-21:00
9	【損金の額(4)】寄附金及び交際費等の損金不算入制度について考察する。	11月28日(水) ⑤19:30-21:00
10	【損金の額(5)】租税公課、資産の評価損及び貸倒損失について考察する。	12月5日(水) ⑤19:30-21:00
11	【連結納税制度及びグループ法人税制】連結納税制度とグループ法人税の概要、譲渡利益、寄附金の規定等について考察する。	12月12日(水) ⑤19:30-21:00
12	【国際課税(1)】外国法人課税の意義・課税原則等及び外国税額控除の仕組み・計算方法等について考察する。	12月19日(水) ⑤19:30-21:00
13	【国際課税(2)】外国子会社合算税制の仕組み・経済活動基準・計算等及び移転価格税制の対象取引・対象者・独立企業間価格の算定方法等について考察する。	1月9日(水) ⑤19:30-21:00
14	【税額の計算】各事業年度の所得に対する法人税の計算及び税額控除について考察する。	1月16日(水) ⑤19:30-21:00
15	第1回から第14回までの授業の総まとめを行う。また、最近の法人税制の改正について考察する。	1月23日(水) ⑤19:30-21:00
試	期末試験	1月30日(水)

験		⑤19:30-21:00
---	--	--------------

## 使用教科書／評価方法等

教科書	白井純夫『平成30年版 図解 法人税』大蔵財務協会（2018年6月20日発行） その他適宜レジュメを配付する。
参考書	金子宏『租税法（第22版）』弘文堂（2017年4月30日発行） 『租税判例百選（第6版）』（別冊ジュリストNo.228）有斐閣（2016年6月30日発行）
評価方法	期末試験 60%、出席を含む授業への貢献度など 40%
その他	